

安芸高田市は
中国地方の中心部に位置します。
毛利元就の時代から、
歴史の転換点で
多様性の受容のもと成長し、
様々な人・文化がとけあい、
独自の文化が
芽吹いてきました。



まちづくりシンポジウム

子育て世代ワークショップ

学生ワークショップ

市民と行政の対話集会

総合計画審議会

市民アンケート調査

市民と市に関わる
多様な人々の参画により、
安芸高田市の未来がどうあるべきか、
対話を重ねてきました。
「百万一心、未来へつなぐ安芸高田市」を
基本理念として、
みんなのチャレンジマップの
実現を目指します。



発行年月:2026年3月
発行:広島県 安芸高田市 編集:企画部 政策企画課
〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791番地 TEL:0826-42-2111
<https://www.akitakata.jp/ja/>



第3次安芸高田市総合計画 概要版

AKITAKATA CITY 3rd COMPREHENSIVE PLAN 2025-2044

百万一心、未来へつなぐ安芸高田市



みんなのチャレンジマップ

2026年3月

第3次安芸高田市総合計画の概要

はじめに

この度、本市の進むべき指針となる「第3次安芸高田市総合計画」を策定しました。総合計画は、市が取り組む「まちづくり」の最上位に位置付けられた長期計画で、次世代を見据え行政だけでなく、市民の皆様とともに目指すところへ進んでいく、言わば、まちづくりの羅針盤となるものです。

私たちは今、大きな転換点に立っています。人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの弱体化、そして社会構造の急速な変化を前に、これまでの延長線上のまちづくりでは、次世代に責任を持つことはできません。そこで本計画では、従来の枠組みを見直し、これまで10年間としていた基本構想の期間を、さらに先を見据えた20年間とし、次世代を担う子どもや孫たちが、このまちでどのような暮らしを営むべきかを未来から逆算して整理しました。

本計画の基本理念として、「百万一心、未来へつなぐ安芸高田市」を掲げています。毛利元就が唱えたとされる“百万一心”～皆で力を合わせれば、何事も成し得る～この精神を現代に体现するため、策定プロセスにおいて「対話」を重視し、市民アンケートに留まらず、学生や子育て世代とのワークショップ、市民との対話集会などを行い、様々なご意見をいただきました。

そこで語られたのは、暮らしの安心や持続可能な地域づくり、そして何より「このまちをよくしたい」という切実な想いです。本計画には、こうした市民の皆様の生の声が息づいています。

計画はつくるのが目的ではありません。実行し、結果を出し、未来をつくるためにあります。安芸高田市に関わる“みんな”で本計画を推進し、20年後の安芸高田市を、今よりもさらに輝くまちとして次世代へつないでいきましょう。

最後に、本計画の策定にあたり、各種アンケートやワークショップ、パブリックコメントなどでご意見をお寄せくださいました市民の皆様をはじめ、熱心にご議論いただきました総合計画審議会委員や、関わってくださった皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2026(令和8)年3月



安芸高田市長
藤本 悦志

(1) 総合計画とは

総合計画とは、市が取り組む「まちづくり」の最上位に位置する計画で、行政運営の総合的な指針となるものです。

総合計画は、基本構想と基本計画により構成され、安芸高田市が目指す将来像と、将来像の実現のための政策目標、さらに政策目標を実現するための施策目標等を記載されています。

(2) 計画の構成と期間

第3次安芸高田市総合計画では、基本構想、基本計画に加えて、安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を重点プロジェクトとして位置付け、これらを一体的に作成します。

基本構想の計画期間は2025年度から2044年度までの20年間、基本計画(重点プロジェクト含む)の計画期間は4年間とし、社会経済情勢や計画の進捗状況等を踏まえて4年ごとに基本計画を見直していきます。

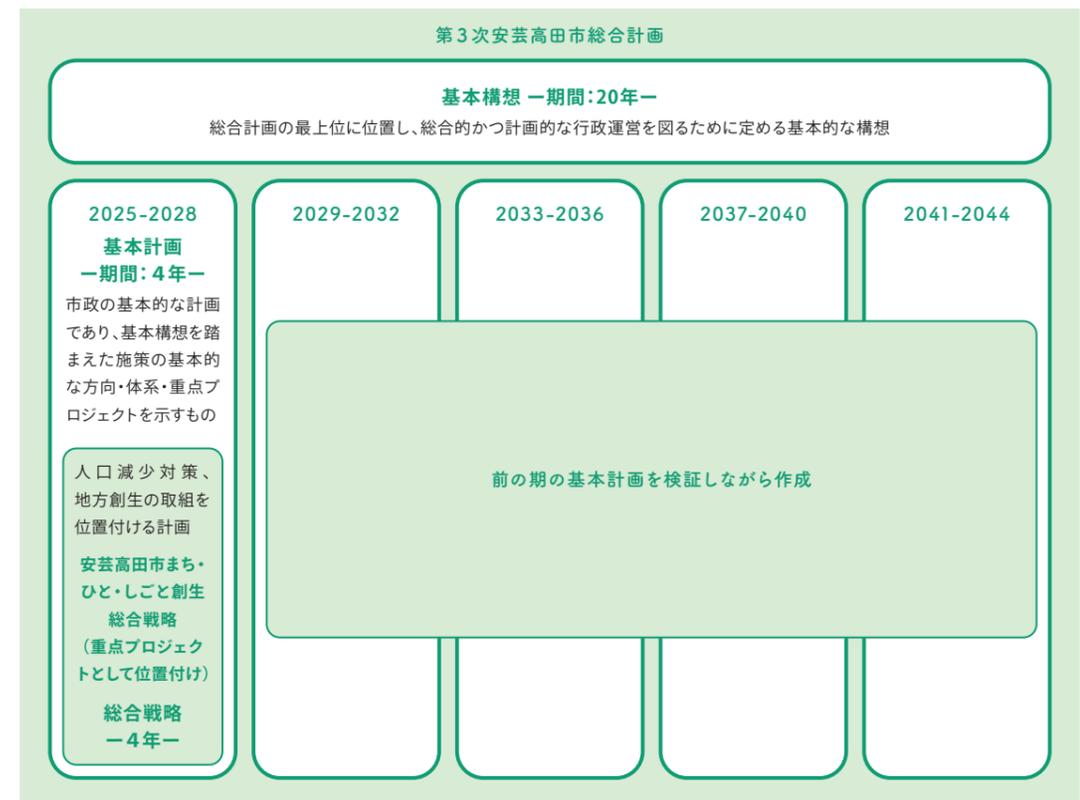


図 第3次安芸高田市総合計画の構成と位置づけ

第3次安芸高田市総合計画基本構想

基本理念 ～まちづくりに係る普遍的な考え方～

2004年(平成16年)に高田郡6町の合併により、安芸高田市は誕生しました。それぞれの地域に個性的で誇らしい文化や自然が多く存在する中で、人口減少下においても、自助・互助・共助・公助の考え方のもとに、安芸高田市を育んできました。これから先も、人口減少は続く予測されることから、自助・互助・共助・公助の考え方がより一層重要となり、市民一人ひとりが能動的にまちづくりに関わることにより、持続可能な地域社会を実現していくことが求められます。

2015年(平成27年)に第2次安芸高田市総合計画を策定し、「人がつながる田園都市 安芸高田」の将来像の実現に向けて、政策を推進してきました。“人がつながる”には、生活・地域・社会を支える目に見えない^{きずな}絆や基盤としてのソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の充実を図っていく想いが込められています。ソーシャル・キャピタルは、人口減少、超高齢化社会において重要な基盤であることから、第3次安芸高田市総合計画でもこの考え方を引き継いでいきます。

2024年(令和6年)には、安芸高田市誕生20周年を記念したキャッチフレーズを一般公募し、最終選考を安芸高田市の未来を担う中高生に依頼しました。その結果、

百万一心、未来へつなぐ安芸高田市

に決定しました。

第3次安芸高田市総合計画でも、「皆で力を合わせれば、何事も成し得る」という意味を込めた【**百万一心、未来へつなぐ安芸高田市**^{注1}】をまちづくりに係る普遍的な考え方として、基本理念に位置付けます。

そして、以下に示す3つの視点から、基本理念の具体化を図ります。

【視点①誰がつないでいくのか】: 安芸高田市民と市に関わる多様な人々

【視点②誰につないでいくのか】: 20年後の世代(子や孫たち、市に関わる多様な人々)

【視点③何を つないでいくのか】: 世代を超えて共通する安芸高田市らしさ

注1: 百万一心は「一日一カ一心」とも読めることから、毛利元就が、「日と同じうにし、力を同じうにし、心と同じうにする」と一致団結の大切さを教えたものとして伝わっている言葉。

第3次安芸高田市総合計画基本構想

将来像 ～基本理念に基づき目指す中長期の理想の状態～

将来像 ー安芸高田市らしさの伝承ー

「歴史から見る安芸高田市らしさ」を参考に、各団体等へのヒアリング、子育て世代を対象としたワークショップ、市民アンケート調査、安芸高田市の未来を考えるシンポジウム「安芸高田市のまちの未来を若者と語る日」等の結果より、「受け継いでいきたい安芸高田市らしさ」として、以下の特長を見出すことができました。

- ・多様な地域、人材・価値観がとけあうまち
- ・若者を始め、多くの市民の新たなチャレンジが芽吹くまち
- ・お互いの生き方や価値観を尊重し、対話の中で解決や決定がおこなわれるまち

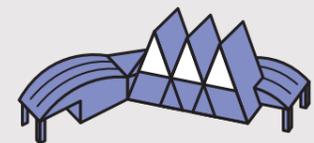
市に関わる多様な人々の価値観を**肯定的関心**^{注2}を持ってとらえ、合意形成を図り、**行動**することで次の展開に進み、それを周りの人に**共有**していくことが、**安芸高田市らしさの伝承**につながります。



将来像 ー新しい可能性を生む・まちの魅力を育む機能の強化ー

市民アンケート調査結果より、20年後の未来、安芸高田市では「道の駅『三矢の里あきたかた』」の機能・サービスを強化すべきと回答する市民の割合が高いことが明らかです。

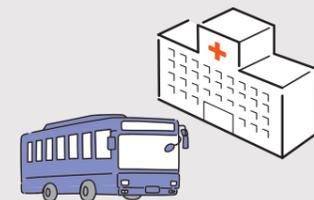
道の駅をはじめとして、まちの魅力を育む機能の強化を図り、**地域内外の交流を生み出し、新たな賑わいを生み出していきます。**



将来像 ー守っていききたい地域の暮らしの機能の維持・確保ー

市民アンケート調査結果より、20年後の未来、安芸高田市では「医療・診療施設」、「公共交通(鉄道・バス)」を残していくべきと回答する市民の割合が高いことが明らかです。

地域の暮らしを守っていくために、市民との合意形成を図りながら**医療・移動手手段等の生活する上で必要不可欠な機能の維持・確保を目指します。**



注2: 相手の意見や行動を評価せずに、そのまま受け入れようとする姿勢

第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現に向けた基本計画

基本計画の構成

2025年度～2028年度

第3次安芸高田市総合計画基本構想の基本理念・将来像の実現に向けて、第3次安芸高田市総合計画基本計画では、以下に示す政策・施策体系を位置付けます。



第3次安芸高田市総合計画基本構想の 実現に向けた重点プロジェクト

人口の長期展望

国土交通省の資料¹によれば、定住人口が17,500人を下回ると救急告示病院や飲食店等の存続確率が50%を下回ることが指摘されています。

安芸高田市の2045年の目標人口を18,000人とするためには、どの程度の政策強度が必要か人口シミュレーションで検証します。

- 政策シナリオA: 毎年、各町に「若年男性6人、若年女性6人」の転入促進又は転出抑制(オレンジ色の折れ線グラフ)→2045年の目標人口18,000人を達成できません。
- 政策シナリオB: 毎年、各町に「若年男性6人、若年女性6人」+「ファミリー世帯3組」の転入促進又は転出抑制(グレーの折れ線グラフ)→2045年の目標人口18,000人は達成できますが、2045年以降の人口の安定化は図れません。

日本全体で人口が減少し続ける中、転入促進・転出抑制の施策だけでは持続的な成果創出にはつながりにくいと考えられるため、政策シナリオBに加えて、合計特殊出生率の段階的な向上により、人口構造の持続可能性を高めていく必要があります。

また、人口減少下でもまちの賑わいを生み出す取組についても進めていく必要があります。

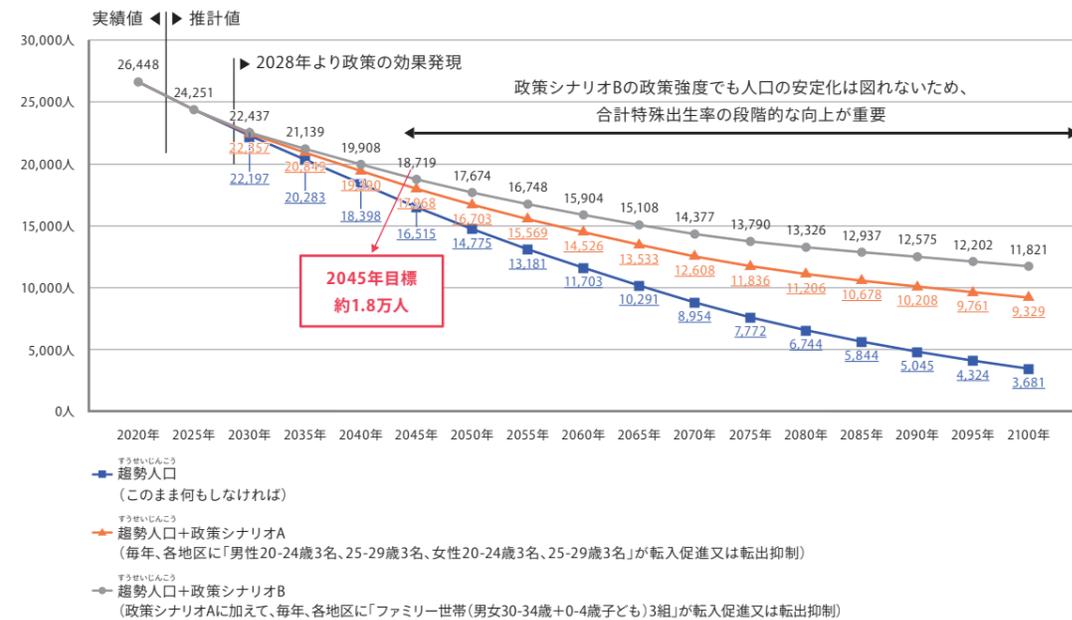


図 安芸高田市の人口シミュレーション

¹ 国土交通省「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」

第3次安芸高田市総合計画基本構想の 実現に向けた重点プロジェクト

安芸高田市が誇る地域資源の活用

安芸高田市が誇る地域資源として、**毛利元就にゆかりのある歴史・文化、ひろしま安芸高田神楽、サンフレッチェ広島**が存在します。これらの地域資源は、国内だけでなく、世界に通用するポテンシャルを有しており、積極的に活用します。

●安芸高田市が誇る毛利元就にゆかりのある歴史・文化の活用

中国地方最大級の規模を誇り、毛利元就が本拠地としていた郡山城を活用し、国内だけでなく、インバウンド観光客の誘致を目指します。

(施策の例示)

- 毛利元就にゆかりのある歴史・文化を活用した観光ツアーの造成等



●安芸高田市が誇るひろしま安芸高田神楽との連携

神楽を次世代に伝承するとともに、ひろしま安芸高田神楽の多言語化を図り、神楽門前湯治村を中心に国内だけでなくインバウンド観光客の誘致を目指します。

(施策の例示)

- 神楽門前湯治村を中核とし、ひろしま安芸高田神楽を活用した観光ツアーの造成
- 市外で行われる神楽公演への出演、情報発信等

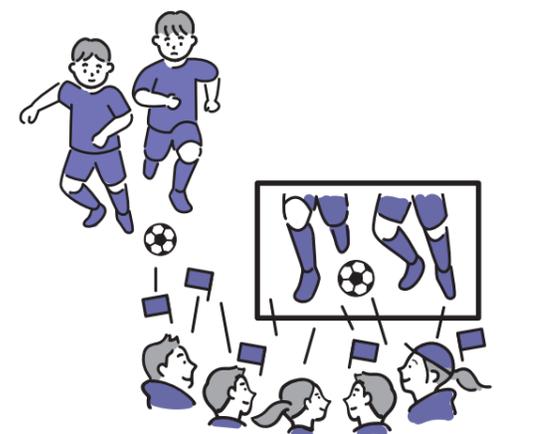


●安芸高田市が誇るサンフレッチェ広島との連携

サンフレッチェ広島のマザータウンとして、ユース生を受け入れており、国内だけでなく、世界で活躍する若者の未来を応援し、サンフレッチェ広島の活躍によりファンを増やし、安芸高田市の知名度・認知度を高めていくことを目指します。

(施策の例示)

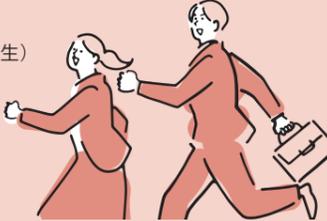
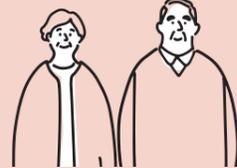
- サンフレッチェ広島応援事業 (パブリックビューイングの開催等)
- サンフレッチェ広島アカデミー強化プランへの支援等



第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現に向けた重点プロジェクト 基本骨格

2026年度～2028年度

第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を重点プロジェクトとして位置付け、人口減少対策、地方創生の取組を推進します。

基本目標/テーマ	基本目標の方針	安芸高田市を選んで欲しい人	検討方針	横断施策	目標人口への寄与	代表目標指標	財政への影響	
<p>目指す将来像の実現</p> <p>子どもたちの未来の生活・居場所を守る</p>	<p>目指す人口</p> <p>2045年 18,000人</p>	<p>基本目標Ⅰ</p> <p>若者に選ばれるまちづくり</p> <p>「子育てするなら安芸高田市」「働くなら安芸高田市」と市内外の人々が実感できるまちづくりを推進</p>	<p>移住者(地元企業・農家)</p> <p>子育て世代</p> <p>市外からの通勤者</p> <p>外国人</p> 	<p>人口ビジョンの結果を踏まえて、目標人口からの逆算思考で真に必要な施策・事業を検討</p> <p>行政主導だけでなく、公民連携によるプロジェクトを検討</p>	<p>公民連携の推進</p> <p>デジタル化の推進</p> <p>プロモーションの推進</p>	<p>転入促進</p> <p>合計特殊出生率の向上</p>	<p>①転入者数</p> <p>②出生に係る指標</p> <p>③安芸高田市への移住に関心がある市外からの通勤者の割合</p> <p>④安芸高田市を住みやすいと思う外国人の割合</p>	<p>市民税等 増加</p>
		<p>基本目標Ⅱ</p> <p>第2のふるさとづくり</p> <p>10,000人が1回訪れるまちではなく、100人が100回また訪れたいまちづくりを推進</p>	<p>観光客</p> <p>個人版関係人口</p> <p>企業版関係人口</p> 			<p>交流人口・関係人口の創出・拡大</p> <p>※目標人口に直接寄与しないが、安芸高田市に興味・関心を持ち、移住を検討する人口戦略として位置付け</p>	<p>①観光客数</p> <p>②「安芸高田市観光ナビ」HPへのアクセス数</p> <p>③個人版ふるさと納税寄附件数</p> <p>④企業版ふるさと納税寄附企業数</p>	<p>寄附額等 増加</p>
		<p>基本目標Ⅲ</p> <p>帰ってきたいくなる学びのまちづくり</p> <p>新卒就職時・大学進学等で一度市外に出ても、また帰ってきたいくなるまちづくりを推進</p>	<p>児童・生徒 (小学生・中学生・高校生)</p> 			<p>転出抑制・転入促進 (将来のUターン候補)</p>	<p>地域への愛着</p> <p>※中長期的な目標はUターン者数の増加だが、計画期間5年での実現は難しいため、地域への愛着を代表目標指標として提示</p>	<p>市民税等 増加</p>
		<p>基本目標Ⅳ</p> <p>自助・互助・共助・公助のまちづくり</p> <p>多世代との交流が生まれ、年をとっても幸せに暮らせるまちづくりを推進</p>	<p>コミュニティ (地域振興組織等)</p> 			<p>転出抑制</p>	<p>転出者数(抑制)</p>	<p>市民税等 増加</p> <p>扶助費・医療費 削減</p>

126人/年の社会増(年間人口千人当たり約5人の社会増) 合計特殊出生率の向上

第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現に向けた重点プロジェクト

基本目標Ⅰ 若者に選ばれるまちづくり

基本目標Ⅰ 若者に選ばれるまちづくりにおけるリーディングプロジェクトは、**若者が働くことができる・挑戦できる環境づくり**とします。

『『子育てするなら安芸高田市』『働くなら安芸高田市』と市内外の人々が実感できるまちづくり』の実現に向けては、子育て環境の充実と合わせて、駅・拠点の周辺で若者にとって魅力的な雇用の受け皿を創出し、賑わいを生み出していくことも重要です。若者が働くことができる・挑戦できる環境づくりを促進し、各施策の効果を高めていきます。

表 基本目標Ⅰのリーディングプロジェクト

施策名称	若者が働くことができる・挑戦できる環境づくり
具体取組	<p>駅・拠点の周辺を対象として、地域にとってのあるべき姿であるビジョンを描き、一定のエリアで若者が働くことができる・挑戦できる環境づくりを促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チャレンジショップの立ち上げ 空き家・空き店舗を活用したチャレンジショップを立ち上げて、若者の挑戦を促し、飲食店等を誘致することにより、賑わいを生み出していきます。 ●サテライトオフィスの誘致 IT系等の中小企業の誘致を促進します。 ●公共施設マネジメントの推進 遊休公的不動産を活用して、民間企業の誘致を促進します。 ●大型商業施設の誘致 遊休地への大型商業施設の誘致を促進します。 ●宿泊施設の誘致 不足する宿泊施設の誘致を促進します。



第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現に向けた重点プロジェクト

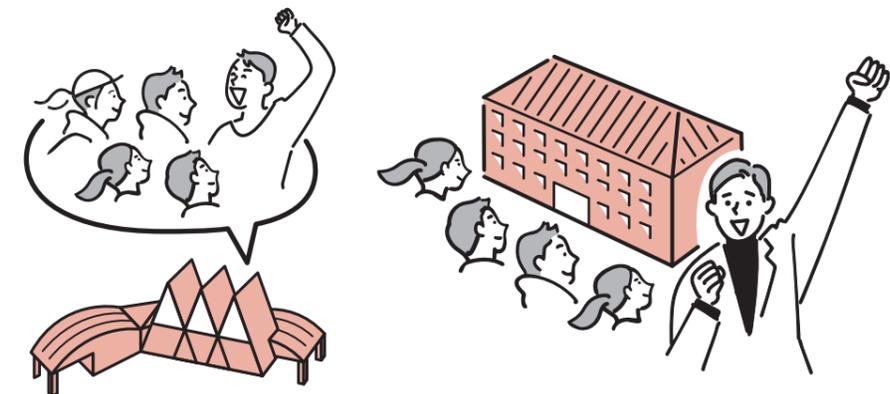
基本目標Ⅱ 第2のふるさとづくり

基本目標Ⅱ 第2のふるさとづくりにおけるリーディングプロジェクトは、**道の駅等拠点施設を活用した関係人口相談窓口の整備**とします。

「10,000人が1回訪れるまちではなく、100人が100回また訪れたいくなるまちづくり」の実現に向けては、従来の「場」を案内する観光案内所と異なり、**地域と人との関係を案内し、継続的なつながりや縁を生み出す新たな「場」の整備が必要不可欠**です。安芸高田市の関係人口案内所の整備により、各施策の効果を高めていきます。

表 基本目標Ⅱのリーディングプロジェクト

施策名称	道の駅等拠点施設を活用した関係人口相談窓口の整備
具体取組	<p>関係人口の創出・拡大に際しては、関係人口案内所の整備だけでなく、その受け皿の整備、地域体験ツアーの造成、地域と関係人口をコーディネートする人材を育成し、安芸高田市における関係人口の継続的な関わりを生み出していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係人口案内所の基本構想・基本計画の策定 安芸高田市をまるごと知ることができる新たな場の整備に向けて、コンセプト、ターゲット設定、プランニング、空間・関わりしるの設計、コーディネートの料金設定等を実施します。 ●PPP・PFIスキームを活用した関係人口案内所の運営 地元の企業・人材と市外企業との連携による運営を行い、関係人口案内所の収益化を目指します。 ●関係人口コーディネーターの育成 地域と関係人口の継続的な関わりをコーディネートする人材を育成します。 ●お試しXの推進 空き家等を活用して、子育て世代のお試し暮らし（地域体験・子どもの教育・就業等）を支援します。



第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現に向けた重点プロジェクト

基本目標Ⅲ 帰ってきたくなる学びのまちづくり

基本目標Ⅲ 帰ってきたくなる学びのまちづくりにおけるリーディングプロジェクトは、**教育の魅力化事業**とします。

「就職・進学等で一度市外に出ても、また帰ってきたくなるまちづくり」の実現に向けては、誰一人のこさない安芸高田協育の推進や、学生が一度市外に出る前の段階で、地域の魅力を再認識し、能動的に地域に関わる仕組みを構築し、地域への愛着を高めていくことが重要です。教育の魅力化事業により、各施策の効果を高めていきます。

表 基本目標Ⅲのリーディングプロジェクト

施策名称	教育の魅力化事業
	<p>小学校・中学校・高校の魅力化を図り、学生や保護者にとって、魅力的な教育を推進します。</p> <p>●中学校統合計画の推進 第3期安芸高田市学校規模適正化推進計画に基づき、中学校統合計画を推進し、生徒にとって魅力的な教育環境を整備します。</p> <p>●未来チャレンジ探究学習の充実 小学校3年生から中学校3年生まで、探究学習を進め、地域に発信することで地域とつながる機会の充実を図ります。</p> <p>●小学校・中学校及び中学校・高校の連携の強化 授業や行事等において、小学生・中学生、中学生・高校生の交流を促し、安芸高田市で学び続けたいと思える機会を提供します。</p> <p>●地域学校協働活動コーディネーターの育成 小中学校を対象として、地域と学校との橋渡し役として活動する地域人材の育成を図ります。</p> <p>●高校の魅力化事業の推進 広島県立吉田高等学校及び広島県立向原高等学校が提案した地域の魅力化事業の推進を図り、高校生が当該事業に関わりながら、地域とつながり続けることが可能な仕組みを構築します。</p>
具体取組	



第3次安芸高田市総合計画基本構想の実現に向けた重点プロジェクト

基本目標Ⅳ 自助・互助・共助・公助のまちづくり

基本目標Ⅳ 自助・互助・共助・公助のまちづくりにおけるリーディングプロジェクトは、**地域振興組織の新たな仕組みの構築**とします。

「多世代との交流が生まれ、年をとっても幸せに暮らせるまちづくり」の実現に向けては、市民アンケート調査結果で明らかとなった若年層の地域振興組織への低い参加率をまずは解決していくことが必要不可欠です。若年層も参加したくなる地域振興組織の新たな仕組みを構築し、各施策の効果を高めていきます。

表 基本目標Ⅳのリーディングプロジェクト

施策名称	地域振興組織の新たな仕組みの構築
	<p>多様な世代にとって、地域振興組織に参加する意義を明確化し、自助・互助・共助・公助のまちづくりを推進します。</p> <p>●多世代参加型のワークショップによる地域振興組織のあり方の検討 若年層も含めた、多様な世代と共に、今後の地域振興組織のあり方を検討します。</p> <p>●地域振興組織に係る指針の作成 多世代参加型のワークショップの結果を踏まえて、地域振興組織の新たな仕組みを構築し、指針として取りまとめ、周知を図ります。</p> <p>●各町における集落支援員の配置 各地域振興組織のニーズ・課題を把握し、解決に向かうために、集落支援員を配置します。</p> <p>●地域振興組織の広報活動 地域振興組織への参加率を高めるために、広報活動を強化します。</p>
具体取組	

